NPO 法人絆での活動を振り返って

社会福祉学部社会福祉学科２年　磯野　未保子
活動先：NPO 法人　絆
クラス：村上　徹也　先生

1. 活動内容

私は、「困った時はお互いさま」の心で助け合う地域福祉事業を行っている「NPO 法人絆」が地域の人々との交流を深めるためのイベントである、「きずなまつり」の運営お手伝いをさせていただいた。事前訪問の時に「きずなまつり」の企画書を提出しており、夏休み中の 6 日間の活動は、その中で採用された企画の準備や運営を主に行った。この 6 日間の活動内容について簡単に述べる。

1 日目：「きずなまつり」のポスターとチラシを制作するため、事前に作ってきたチラシ案を確認してもらう。職員の方にアドバイスを貰いながら数パターンのチラシ案を作成。出来上がったものを、絆の会議で了承を貰うために提出。

2 日目：100 円の券が 2 枚ついた招待券を、昨年のものを参考にしながら作成。100 円の券 4 枚、50 円券 4 枚をセットにしたきずなチケットも前回を参考にしながら作成。ポスターの色塗りを、デイサービスの方々に手伝っていただきながら作成した。

3 日目：チラシとポスターを、他の NPO やスーパー、店に置かせてもらえるようにお願いしに行った。施設の方々が集めてくださった景品の数を確認。その後、紙コップ、折り紙、ペンを使って、輪ゴム鉄砲のまと作りを行う。

4 日目：施設内で、ゲームに使えそうなモノを探し、改造を行う。ゲームのルール決め、備品作り。チケットを色紙に 100 枚印刷。色紙に印刷したチケットに、切り取りやすいようにミシンがけを行う。祭りの時に壁に貼るプログラムの作成。

5 日目：ゲーム作り。看板、施設内の地図、イベント表の作成。近隣の方々に、祭り当日に迷惑をかけてしまう事への謝罪と、チラシと 200 円分のチケットを渡して回る。

6 日目：「きずなまつり」当日。テント張り、ゲームの設置、シフトの確認。祭り開始後、輪投げコーナーで接客。後半は会場を回りながら、ゲームコーナーの手伝いをし、最後にはあいさつと花火を打ち上げた。会場の片付け。

前回、前々回の「きずなまつり」よりも多くのお客様に来ていただき、大盛況となった。今回の祭りを行う目的は、「『NPO 法人絆』が、どのような活動をしているのか、どのような人が利用しているのか、できるのかなどを知ってもらう。そして、地域の方々に『絆』を活用してもらうためのきっかけ作りを行う」と決めていた。この目的に沿って行った絆についてのクイズがついたスタンプラリーも「絆について改めて知った」と好評であった。

2. 自分の気づきと成長

活動の中での私の気づきは、祭りに思ったよりも大勢のお客さんが来ていたことだ。絆は施設が小さく、細い道を少し進んだところにあるので、そこに施設があることは気づかれにくい。しかし、祭りには 400 人以上のお客さんが遊びに来てくれた。今年で 3 回目の成果が出てきているのではないだろうか。また、祭りには、施設職員さんの関係者以外にも、ガールスカウトや他の NPO 法人の方など多くの方が手伝いに来ていた。それは、地域や他施設との連携の証であり、地域の中での絆の繋がりを感じることができた。

私が活動の中で成長したと思うところは、自分の意見を発言するようになったことである。活動中、職員さんへのイベントやゲームの説明や「こうしたほうが更に良くなるのではないか」という提案をする機会が多くあった。特にスタンプラリーは私たちから提案した新しい試みだったため、どのようなものにしていくのかという話は何度も上がった。こうした話し合いの場で黙っていては何も始まらない。必然的に自分の考えていることを相手に説明しなければならない状況が何度もあった。この時、職員さんが熱心にこちらの話に耳を傾けて、頷きながら、肯定しながら聞いてくださったため、自分の意見を発信することに自信を持つことができ、相手に理解しやすいように話そうという余裕を持つことができた。人に肯定してもらう事で自信を持てる。関心があるのだと表現されることで、自己肯定感を持つことができるということ身をもって知ることができた。

3. 活動を通して見えてきた地域活動

「きずなまつり」の運営に携わらせていただいた過程で、デイサービスを利用している高齢者の方々や精神・知的障がい者の方々と、短い時間ながらも触れ合うことができた。皆さんが絆の中で楽しみを持っており、絆が利用者さんの生活の一部として確立していることが分かった。「きずなまつり」を開催する理由は、地域の人々に絆について知ってもらうためである。絆について知っている、関わっている地域の人々は利用者さんや職員さんの関係者がほとんどを占め、それ以外の地域の人々の絆の認知度はまだまだ低いようだ。

NPO の方に何か課題はあるかと質問をすると、多くの NPO が地域での知名度が低いということを挙げている。地域での知名度が低いということは、NPO の存在を知らないことで、地域の中で生きにくい生活を送っている方がいるということである。NPO は、入会してもらうにしても、こちらから声掛けをしていくにしても、NPO という存在を知っていてもらわないと難しいと考える。そのため、「きずなまつり」のような地域の方々と関わっていけるイベントや活動はとても重要であり、さらに活発に行っていくべきことだと思う。

4. より深めていきたいこと

絆で活動を行ったことで、地域にある様々なニーズを充足する NPO の役割や活動について、地域の中のニーズを知るためにはどうすれば良いのか、地域での NPO の知名度を高めるためにはどのような活動が効果的かについて興味を持った。これらからの学生生活の中で、より深めていきたい。